

公衆衛生学

責任者：高加 國夫
学年・学期：第1学年・前期／後期

単位数：2単位(45時間)

◆一般目標(GIO)

社会構造の変化から国民のライフスタイルが変わり健康維持や体力増進のためには国をあげての対策が必要となった。環境破壊や人口問題、少子高齢化に伴う医療費、介護費、年金などの高騰は大きな社会問題である。本講義ではこれらを視点に疾病の原因、栄養、精神衛生、産業衛生などの知識を習得することを目標とする。

◆到達目標(SBOs)

1. 健康における公衆衛生の意義、公衆衛生活動の使命について理解できる。
2. 健康の概念と予防医学の考え方について理解できる。
3. 世界の人口、日本の人口について現状と将来の問題点を理解できる。
4. 疫学概念、調査方法について理解できる。
5. 感染症発生の要因について理解できる。
6. 病原菌、感染経路、感受性について理解できる。
7. 感染症の種類・定義について理解できる。
8. 予防接種について理解できる。
9. 主要感染症の予防対策について理解できる。
10. 母子保健施策について理解できる。
11. 生活習慣病の動向・対策について理解できる。
12. 高齢者福祉の意義・動向・地域包括ケアシステムや在宅医療を含む多職種連携の在り方について理解できる。在宅医療の在り方についても理解できる。
13. 学校保健の意義について理解できる。
14. 精神保健の現状について理解できる。
15. 生活環境の現状・問題点について理解できる。
16. 種々の公害について対策も含め理解できる。
17. 栄養と健康、栄養摂取の現況・問題点について理解できる。
18. 食中毒の現状・特徴について理解できる。
19. 産業構造の変化に伴う、職種に特有な疾患について対応も含め理解できる。
20. 人口動態に関わる諸指標の意義と動向について理解できる。
21. 国民の健康の為の施策(法規・医療制度・社会保障・福祉)について理解できる。
22. 公衆衛生学実習の目的を理解し、得られた結果から背景を説明できる

◆学習方法

教科書を中心に、必要に応じてプリント、映像を使い講義形式で行う。

◆評価方法

定期試験成績に加え、授業態度、授業中の小テストを考慮に入れ総合的に評価する。

◆教科書

臨床検査学講座 『公衆衛生学』 照屋 浩司・川村 堅 著 医歯薬出版(株)

◆参考書

『国民衛生の動向』、『国民福祉の動向』 (財)厚生統計協会
『衛生学・公衆衛生学』 医歯薬出版(株)

◆教員紹介

担当教員は病院・高齢者福祉施設での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	公衆衛生学総論①	公衆衛生学の意義と使命、健康の概念と予防医学の考え方、健康管理	高加
2	公衆衛生学総論②	衛生統計	〃
3	公衆衛生学総論③	衛生行政、医療制度、社会保障・社会福祉	〃
4	公衆衛生学総論④	国際保健、国際機関・医療協力、保健状況	〃
5	疫学①	疫学の概念、因果関係、疫学研究方法	〃
6	疫学②	感度、特異度、ROC曲線、スクリーニング	〃
7	感染症①	感染症の成立要因	〃
8	感染症②	新興感染症等の種別分類と特徴、医療関連感染	〃
9	感染症③	主要感染症の予防対策	〃
10	母子保健	母の健康、出産、新生児・乳児・小児の健康	〃
11	学校保健	学校保健、保健管理、学校における感染症	〃
12	成人保健	成人保健の動向と生活習慣病の予防	〃
13	高齢者保健	高齢者保健・福祉の意義と動向、地域包括ケアシステムと在宅医療	〃
14	精神保健	精神・神経疾患、精神保健福祉対策	〃
15	環境と健康①	屋内環境、上水、下水、廃棄物	〃
16	環境と健康②	物理環境、化学環境、環境リスクの評価	〃
17	環境問題と環境汚染①	地球環境、大気汚染、水質汚染	〃
18	環境問題と環境汚染②	土壌汚染、悪臭、公害	〃
19	栄養と食品衛生①	栄養と健康、栄養素、栄養摂取、食品行政	〃
20	栄養と食品衛生②	食中毒	〃
21	栄養と食品衛生③	食品化学、食品添加、食品衛生監視	〃
22	産業保健①	労働災害と業務上疾病、労働衛生管理、健康診断	〃
23	産業保健②	産業疲労、加重労働、トータル・ヘルスプロモーション・プラン、VDT作業	〃